

中津川市総合計画審議会  
第1回防災・環境部会要旨

平成25年8月22日（木）  
午前10時00分開会

開会

- （大西会長） 第1回の審議会で三つの部会となったので、まず部会立ち上げの具体的な作業に入る。
- 部会を運営する部会長・副部会長を互選していただくが、それまでの間、部会の招集責任者として互選まで議事運営をさせていただく。

1. 事務局連絡

- （大西会長） 事務局から連絡方法や審議会、部会の情報周知などについてお願いしたい。
- （木村企画財務課長） 今後の部会の情報伝達のため、会長、部会長、副部会長から各委員への連絡手段として連絡先（携帯電話番号、メールアドレス等）をお知らせいただきたい。配布する用紙あるいは名刺等の提出にぜひとも協力いただきたい。
- 審議会や部会の議事録や今後、開催される部会の日程・議案等について、書類でお知らせするとともに、中津川市のホームページへ掲載したい。掲載場所は、中津川市役所のホームページのトップページの右側の「各種審議会等会議結果」の中の「中津川市総合計画審議会」のコーナーに今後、開催される部会の日程・議案・開催内容等を随時掲載していきたい。
- （大西会長） 委員のみなさまから提出いただく資料等も、連絡先を通じて共有させていただく。情報の周知については、ホームページで行う。全体の審議会の議事録ないし要約は、会長ないし副会長が担当し、部会は副部会長が議事録を担当して、確認してサインしホームページに載せる。

2. 審議会の位置付け

- （大西会長） 7月12日の審議会で市長から、議論の進め方のシステムを含めて諮問を受けた。
- 会議資料3にあるように、市の全体の総合計画は基本構想と実施計画の二層からなっている。基本構想とは市長が市議会に提案し、市議会の承認を受けるものである。
- 審議会は、市長が提案する基本構想の骨格となる部分を答申にする。
- 審議会での議論や決定の部分は市長に委ねてしまうというシステムの中で諮問を受けたということ。市長にどのようにアピールするか、審議会としてしっかりとした論理を組み立てて、委員としての満足度を高めるというのが重要。
- 市長が基本構想を仕上げるにあたって、全体を審議会の答申に依存しているかということではなく、市としていろいろな調査や報告書を用いつつ、答申をどう活かすかということ。

審議会が市の全体の中でどのような位置づけになっているかについて、市のなかで現在どのような計画や作業が進行しているかを調べた一覧表がある。一担当者がまとめたものでなく、各部長に文書を回覧して調べた市役所全体としての責任ある資料である。今後、部会等での審議の経過において、計画について問い合わせる、報告を求めるといったことが可能になる。

### 3. 委員・部会の位置付け

- (大西会長) 審議会自体は24名の委員で構成されている。委員の大多数には所属団体があり、この審議会の特徴は、中津川市を構成している主要な組織・団体の集まりである。それ以外の直接民主主義的なものとして、公募委員と識見委員として所属を代表する人、しない人が含まれている。
- 主要な組織・団体を代表する人の意見を聞きたいということを柱としながらも、先般の審議会でも意見があったように、市民一人ひとりの意見を聞くために、公募委員や識見委員という部分で、直接民主的な部分を取り入れている。さらにアンケート調査、市民グループのインタビューによって市民の直接の意見を聞き、それを参考にして審議をするというシステムになっていることも理解しておいていただきたい。
- 三つの部会には主要な審議内容を示しているが、これがすべてではなく追加、まとめるといったこともよいという考え方である。
- 要綱によると各部会の委員は会長が指名するとなっているので、会長が2人の副会長と事務局と仕分けを行い、異動希望はそのとおりに受け入れている。三つの部会を原則8名としたが異動希望があったので人数差が出ている。また、例えば産業部会に関係者がすべて集まるかというとそうではなく、8名の委員のうち部会に関係の深い方が二分の一、その他の部会に関係のある方が二分の一となっている。意見を出す際には、部会にこだわらなくてもよいので、自分の選出母体の立場で考えていただきたい。

### 4. 部会の作業

- (大西会長) 基本構想の三本柱は、①基本理念、②市の将来都市像、③政策の分野別体系となっている。会長と2人の副会長と相談した結果、部会は三つの柱のうちの二番目の市の将来都市像について議論していただきたい。
- 議論のベースとしては、それぞれ所属団体の代表として委嘱しているので、当然個人の考えが入ってくることはあり得るが、まず、所属団体からみて市の将来像をどのように想定しているのか、望んでいるのかを考えてほしい。二番目に、現在までに取り組んでいることの延長線で、イメージした将来像の実現に向けて、組織・団体がどのような寄与ができるのか考えていただきたい。この二つの点をやっていただきたい。
- 二つの点について簡単に報告書的な文書にしていきたい。文書を共有することで議論を進め、議論が進んでいく中で文書を書き直すといった手順があっ

てよい。

こうした部会での議論や各団体からの提案・所信表明をもとに、基本構想の中の基本理念、施策の分野別体系について会長と2人の副会長、各部会長の6人の会合で原案を作り、原案を部会に持ち帰って議論をしていただき、最終的に審議会で議論をしていく。

#### 5. 部会長・副部会長の役割

- (大西会長) 審議会の規定にはないが、審議を手順よく進めるために部会長・副部会長と会長・副会長によるヘッドクォーター的なものを作りたい。
- 三役（会長・2人の副会長）の指示で部会を運営していただき、三役と3人の部会長が会合をもって全体の審議内容と日程を調整していく。
- そして、三役と三部会長の会合で、部会で議論していただいた将来都市像をもとに基本理念と分野別施策体系の原案を作成し、みなさんに審議していただくというシステムでいきたい。

#### 6. 事務局の位置付け

- (大西会長) これまでの経験から議論をするという時間切れになり、最後に事務局が原案を作って出すということになる。しかし、何人かの委員から事務局主導で最後は押し付けになることはやめてほしいという意見が出た。あくまでも自分たちで作っていくという出発点でやっていく。
- 但し、すべてのことを自分たちでやるには時間的な制約があるので、事務局や業者を使うということは当然出てくる。
- 今後の審議にあたって、最後に事務局に救ってもらうということはやめる。市役所の職員が審議に加わることはない。市役所として発言する場合は、部会の副部会長を通じて提案をしてもらう。事務局との関連は副部会長を通じて進めてもらい、副部会長が事務局を指示して資料等を集めてもらう。
- 産業部会でも同じ説明をして合意をいただいている。審議のシステムについて統一性をもたなくてはならないので、了承いただきたい。

～説明終了～

～互選により、部会長は丸山充信委員、副部会長は栗谷本委員に決定する～

午前10時34分 休憩

午前10時38分 再開

～各委員自己紹介を行う～

- (大西会長) 昨日に続いて二つ目の部会だが、欠席者に対する情報や依頼の伝達手順を決め

る必要がある。明日以降、そのシステムについて副部会長を通じてお伝えしたいと考えている。

(丸山充信部会長) 組織・団体からの方は代理出席でよいが、公募委員の方はどうなるのか。

(大西会長) 公募委員には代理権はないが、委員として全体の情報を得る権利はある。部会の決定事項や作業依頼などの伝達方法について、三つの部会で共通したルールを明日以降、文書化したい。

(丸山充信部会長) 個別計画の一覧表のうち始まっているものはよいが、平成 27 年度などというのはどういうことか。

(木村企画財務課長) これから策定するということです。

(大西会長) どういう意図があるか、何があるかを知っておく必要がある。市としてどういう方向で考えていくかが分かるというもの。

また中津川市は唯一の自治体ではないので、中津川をとりまく近隣都市の総合計画の情報も集めている。

(丸山充信部会長) 確認したいが先ほど会長の意向があり、まず文化協会、PTA 等といった委員の選出母体の将来像を A4 一枚でまとめて出していただくことをお願いしたい。私も体育協会として書かなくてはならないと考えている。全部の委員が出したほうがいいのか、この中に入っていればいいのか。

(大西会長) フリーの方はフリーの立場で書いていただく。私の場合は大学として都市の将来像をどう考えているか、同じく大学の浅井教授は大学としてというより市民としてということではいけないかと思う。

(丸山充信部会長) 文化協会、体育協会、PTA でも最近作られた活動計画などがあれば、中津川市の総合計画にふさわしいことがあれば、それらも含めて次回の部会までにレポートをお願いしたい。

防災・環境部会は四つのテーマとなっている。作業は 2 人ずつぐらいのワンペアで進めてはどうか。それを部会に持ち込んで議論して、議論の積み重ねによって最終的に総合計画の中身にもっていきたいがいかかが。

(栗谷本副部会長) イメージとしては全体で 24 名、分解すると 8 名。7 名ですべてカバーできるのか不安がある。一人だと独りよがりになるし大勢になると集約できないので、一度たたき台を作って議論を重ねていくということではないと難しい。得意分野で重複してもよいのでペアになって作っていくという形でどうか。

防災・環境部会に四つのテーマがあるが、別々ではなく関連性がある。その関連性も含めて提案するということがよいと思う。

(丸山 充信部会長) 委員の皆さんの意見はいかかが。

(小倉委員) まずたたき台でやってもらっていい。

(加藤 雄一郎委員) 部会の中でペアに分かれて、持ち帰ってやるということか。

ある程度の指針が出たところでどうですかということがあるといい。PTA としてということであれば出ると思うが、市長に出す答申というところまで絞っていくには、漠然とした意見しか出ない。果たしてそれで説得力のある提案ができるかどうか不安である。

(波多野委員) 部会で検討するためのたたき台なので、できないことはないと思うが、この方法がいいのかどうか。

(加藤 雄一郎委員) 皆様の立場から A4 の将来像が出てくるので、それを部会長・副部会長である程度絞ってからでいいように思うが。

(栗谷本副部会長) これからの中津川の将来像を決める非常に重要なもの。各分野の代表の方が中津川教育なり自然なり産業について、こういう姿であるというものははっきり出さないと基本計画になってこないと思う。各組織・団体の現状と課題、将来こういうところと手を組んで中津川をこうしたいということを出していかないといけないのでは。

(丸山充信部会長) 選出団体の意見ばかりでは自分たちの利益誘導になってしまうので、そうではなくフラットな眼で見て将来像はどうかということを 12 年間の基本構想にしていく。選出母体にとらわれない方がよいと思っている。  
市ではコンサルタントに業務委託している。現総合計画の検証や策定支援、グループインタビューの中身はよく分かるが、アンケートは中身を見ていない。

(木村企画財務課長) アンケートは 8 月 16 日に締切り、現在集計中。9 月 6 日にアンケート結果の速報値が出る。

(丸山充信部会長) 大西会長の意向としては、事務局はあくまでも事務方で委員が作成するという形になっているので、私たち委員が真剣になって将来像を作っていかななくてはならないのでお願いしたい。  
集約は総花的にやっていたのでは時間が経つばかりなので、ペアを組んで話をして次回の部会に持ち込むという形がもっともではないか。  
個別計画の一覧に膨大なものがあるが、関係資料はすべて副部会長と事務局のコミュニケーションでやっていただく。委員の方が必要な資料等があれば副部会長に連絡いただき、副部会長が事務局へ要望するという手順としたい。

(加藤 雄一郎委員) 今日まとめた委員の連絡先等は、全部にわたるか。

(栗谷本副部会長) 部会の中で共有すると思う。

(丸山 充信部会長) この進め方でいきたいのでよろしくをお願いしたい。ペアは 8 人なので 2 人一組でつくることではいかがか。

～異議なし～

(丸山 充信部会長) 四つに分けて話をして、事務局から副部会長経由でいろいろな資料をもらって、煮詰めなくてはならないから。総合計画を立てた場合に、実行中の計画が変わる場合もあり得るか。

(木村企画財務課長) 個別計画の年度が来て切れることがあれば、総合計画と整合性をとって新しい計画に変わる場合がある。

～ペアの調整が行われる～

(丸山 充信部会長) 一番目(災害対策・防災対策・防犯対策・交通安全対策)を小倉委員・曾我委員、二番目(ごみ・し尿対策)を大西委員・波多野委員、三番目(自然環境保全・地球温暖化対策・再生可能エネルギー)を栗谷本副部会長・田中委員、四番目(市民活動・地域コミュニティ・地域公共交通)を丸山・加藤 雄一郎委員で願います。

早急に個別に打ち合わせをしていただき、必要な資料は副部会長を通じて資料を請求していただきたい。

またアンケートに関連することもあるので、アンケート設問もみておきたい。

(大西委員) 調査票の原案に対しては、委員からの意見が出たもので修正して実際の調査を行っている。現在実施している最終の調査票が我々にわたっていない。

(丸山 充信部会長) 部会での将来都市像の議論を進めていき、この中にはじめて基本理念と政策の分野別の施策体系の原案をつくっていきたいという考え方。ただあまりにも時間がないので、この3か月が勝負だと思っている。忙しいかと思うが協力をお願いしたい。

四つの柱についてはペアでアクションを起こしていただき、次回の部会までに議論が進められるようにしていただきたい。

次回の開催日は、9月13日(金)10時から開催する。

午前11時15分 閉 会

9月9日  
丸山充信